Japanese Association for National Hospital Medical Technologists, Kanshin Branch

国臨協関信

HPアドレス　https:// kanshinshibu.org

令和元年11月
事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者　岩崎　康治
編集委員　若林　　弘・木津谷　亮
小池　勝人
印刷所　東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443

第47回国臨協関信支部学会報告

国臨協関信支部　事務局長　椎　名　將　昭

令和元年９月７日（土）に記念すべき令和初の学会として第47回国臨協関信支部学会が開催されました。本年度は、例年開催されておりました国立国際医療研究センター病院に会場を移し、慣れ親しんだ会場での開催となりました。９月に入り、台風の話題が出始め、影響がないかと心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、30℃を越す暑さとなり、「支部学会＝暑い」というイメージが定着しつつあります。

さて、本年度の関信支部学会のメインテーマは「変革～新しい時代に向かって～」とし、360名を超える会員の皆様の参加をいただきました。一般演題は36題の発表がおこなわれ、活発な質疑応答が見られたセッションもありました。また、新人の演題も22題と半数以上を占め、若い方々の熱意を感じられた学会だったと思います。ここ数年、皆様にご迷惑をおかけいたしておりましたシステムトラブルにつきましても、専門業者に委託したことで、発表者および参加者の皆様には安心して学会をお過ごしいただけたことと思っております。午後より開催いたしました学術委員による分科会におきましては、血清部門として「免疫検査の基礎とピットホール」、一般部門として「知っておきたい尿検査の進め方」と題しまして、基本から応用まで知識をまとめる事ができた有意義な分科会になったのではないでしょうか。

学会セレモニーにおきましては、学術委員により構成された学会賞選考委員による厳正な審査の結果、各学会賞（学会特別賞、新人賞）が発表されました。支部表彰者としてご出席いただきました小川勝様（千葉地区会）、齊藤美穂子様（長野地区会）の２名を表彰させていただきました。地区会ポスターですが、今年度は断トツの得票数で茨城地区会が優秀賞を受賞いたしました。地区会ポスター制作テーマ「検査科自慢」に沿って選考されます特別賞には栃木地区会が受賞され、北関東の実力を垣間見ることができました。毎年、趣向を凝らしたアイディアで参加者の目を楽しませていただいております。各賞を受賞されました皆様、おめでとうございます。さらにはご多忙のところご臨席を賜り、お祝いのお言葉をいただきましたご来賓の方々に心より御礼申し上げます。学会終了後の意見交換会では、OB会やご来賓の皆様にもご出席いただき、会員の親睦を深める事ができました。

最後になりましたが、学会の運営にあたりご協力をいただきました実務委員、国立国際医療研究センター病院の方々、また多数の出席をいただきました会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第47回国臨協関信支部学会 学会賞選考委員会報告

国立療養所栗生楽泉園
国臨協関信支部学術委員会 委員長
林　元久

国臨協関信支部表彰規定により、学術奨励賞ならびに、学会特別賞、学会新人賞の選考について報告いたします。

学術奨励賞は学術的に価値あると認められたもの、学会特別賞は各施設、または各地区会の取り組みなどで価値ありと認められたもの、学会新人賞は概ね５年以内の会員で、業務の取り組みなどで価値あるものと認められるものに贈られます。

今年度の学会賞選考委員会は、令和元年８月９日に国立国際医療研究センター病院において国臨協関信支部学術委員会 阿出川裕子 副委員長（国立がん研究センター東病院）、石川明子 生理部門長（NHO東京医療センター）、山田浩司 微生物部門長（国立がん研究センター中央病院）、国臨協関信支部 吉田茂久 副支部長に私を含めた５名が参集し、第１回選考委員会を開催し抄録査読による一次選考が行われました。事前に行われた学術委員会各部門による査読評価を参考にし、登録36演題から学術奨励賞３演題、学会特別賞２演題、学会新人賞２演題の候補を選出しました。

令和元年９月７日の学会当日に、「発表の持ち時間に対する時間配分」、「スライドの見やすさ、分かりやすさなどの作成状況」、「発声音量や視線位置などの発表の態度」、「質疑に対する応答が適切であるか」などを支部学会評価基準に基づいて、各委員の持ち点からの減点方式および発表内容に更なる価値を認めた場合は加点する方法で二次選考を行い、各賞を決定しました。

学術奨励賞は、一次選考で有力候補に挙がっていた演題が二次選考でいずれの評価項目も評価が高く加点も付与された発表内容でした。しかし、発表者の体調不良のために共同演者による発表であるため、学会賞選考委員会で協議の結果、選考の公平性を考慮して評価の対象より除外することになりました。国臨協関信支部表彰規定の学術奨励賞に値する素晴らしい内容でしたので誠に残念な結果であります。他の２演題については、選考委員の二次選考評点が思わしくなく、抄録内容との不一致や考察不足があったため落選となりました。

学会特別賞は、国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院　中央検査部門 北浦優紀技師が発表された、『救命救急センターにおける臨床検査技師の役割』を選出しました。現在、臨床検査技師が参画しているチーム医療は、ICT、NST、糖尿病療養指導などの慢性期医療が中心となるものが一般的ですが、救命救急センターという急性期医療の現場で、臨床検査技師がどのような役割を果たせるのか非常に興味深く、臨床検査技師の職域拡充を図るうえで、重要な取り組みであると思われます。今後更に、全ての臨床検査技師が参画できるような教育体制を発信していただきたいと思います。

学会新人賞は、NHO相模原病院　臨床検査科 堀口陽平技師が発表された、『当院における化学療法前検査時間の短縮への取り組み』を選出しました。がん治療における化学療法での、重篤な副作用を回避するための一助となる化学療法前検査は、診療の上でとても重要であり、検査時間短縮のため他職種と連携を図り、様々な改善を模索した結果、報告時間を大幅に短縮する成果を得ることができました。これにより、患者と臨床側に大きな貢献をした取り組みであると思われます。今後も継続して、患者サービスを目的とした様々な取り組みの発信を期待します。

今年度の各受賞演題は、他職種との連携と相互協力のなかで、様々な運用の模索や検討をしたという発表内容でした。その結果、患者様や施設に貢献できる新たなかたちのチーム医療への参画ではないかと思います。また、関信支部の各施設の検査部門が参画できる新たな業務や他職種との連携を考える上で、大変参考になるものではないかと感じます。

受賞された先生方ならびに施設の皆様おめでとうございました。

学会特別賞を受賞して

国立国際医療研究センター病院
北　浦　優　紀

令和元年９月７日に開催された、第47回国臨協関信支部学会において学会特別賞をいただき、大変光栄に思っております。

本学会で発表した「救命救急センターにおける臨床検査技師の役割」は、昨年10月より開始した救命救急センター（以下ER）での活動内容に関して報告したものです。

ERという検査室とは異なる現場で検査技師が活動をする事は、現時点ではあまり多くはなく、実際に業務に携わってみて、新たな現場で何ができるのかを問われているように感じました。

その中で、心電図、超音波検査などの検査業務は勿論のこと、採血管の三点認証による患者誤認の防止など、医療安全の面に関しても積極的に取り組んできました。このようにインシデント、アクシデントの防止となる役割を見出せたことは、大きな収穫であったのではないかと思います。

しかしながら、これはまだほんの一部であり、現在検討中である大量出血時の対応など、他にも役割を果たせる部分は大いにあると考えられます。

業務開始から間もなく一年となりますが、上記のように検査技師として介入できる業務の模索、検討を行うことで、今後更に職域の拡充を進めていければと思います。

また、時間帯によっては人員不足となる場面もあります。処置などを行う機会は多いため、検査業務だけに拘らず、積極的に補助に入ることで、人員補充という意味合いにおいてもERの現場で貢献できるよう活動を続けていきたいと考えております。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、ご尽力いただいた国臨協関信支部学会役員及び関係者の皆様と、発表に際してご指導いただきました当院中央検査部門の皆様に厚く御礼申し上げます。

新人賞を受賞して

NHO相模原病院
堀　口　陽　平

令和元年９月７日に開催された第47回国臨協関信支部学会におきまして、新人賞をいただき大変光栄に思っております。

今回「当院における化学療法前検査報告時間の短縮への取り組み」を発表しました。

当院において化学療法後、診療時間終了間近にアナフィラキシーショックを発症する事例を経験しました。

そこで、化学療法スタッフとともに化学療法の開始時間を早くすることで、診療時間内に点滴を終了できないか検討したことが発端でした。

検査科としましては、化学療法前の検査報告時間を短縮することで、化学療法開始時間を早くできるのではないかと考え具体的に検討し対策しました。

また、化学療法スタッフと連携し時間短縮に向け様々な取り組みを考え実施した結果、患者来院から点滴開始まで平均27分短縮され、診療時間外化学療法患者数も月平均１人に減少することができました。これらの取り組みを通して、他職種とコミュニケーションをとる重要性などチーム医療の大切さ感じました。また、化学療法の流れや実施要件など知らなかった知識が多く大変勉強になりました。

今回、初めての学会発表だったため戸惑うことや躓くこともありました。本学会の抄録およびスライド作成に当たり、化学療法スタッフや佐藤技師長をはじめ検査科の皆様の多大なご指導とご協力により自分の納得いく発表をすることが出来ました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

今後は、この賞に恥じない臨床検査技師に成長すべく自己研鑽し、自身の目標に向かい精進していきたいと思います。

最後に、本学会を主催してくださいました国臨協関信支部役員および関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

地区会コーナー優秀賞を受賞して

NHO霞ヶ浦医療センター
草　薙　真　理

令和元年９月７日に開催された国臨協関信支部学会ポスター展示において、「地区会コーナー優秀賞」を受賞することができ、大変ありがとうございました。ポスターを作成するにあたり、他の地区会では文章や写真が沢山載った趣向をこらしたものが展示される事は把握していました。そのようなポスターを作る技量もなく、大体、ポスターに載っている文章をまじまじと読んだ記憶すらない私は「文章は必要ないのでは」と考えましたが、さすがに大胆すぎるので、小さい文字にして申し訳ない程度に載せることにしました。それから、10秒位見れば内容が把握できるようなものがご覧になって下さる方にも疲れなくていいのではないかと思い、いきついたのが「スーパーのチラシ風」でした。一見、簡素なポスターでも、QRコードから各施設が作成したビデオを見る仕組みとしました。

また、テーマの「検査科自慢」ですが、私の施設では「在宅医療」や「救急医療」のような先端を行っているようなものはなく、今にも壊れそうな古い建物と古い分析機（アキュート17年）や室外機、ベテランの〇〇さん位しか特色が思いつきませんでした。しかし、古いことはよく言えば「年季が入っている」＝自慢？ということに気づきました。

最後になりますが、QRコードのアイデアを下さった霞ケ浦医療センター 渡辺主任、それにご賛同いただいた茨城地区会役員の皆様、作成にご協力いただいた茨城地区会 中村理事、同岡村理事、霞ケ浦医療センター新井さん、モデルの富谷さん、検査科長 近藤先生、本当にありがとうございました。また、関信支部役員の皆様をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

地区会コーナー特別賞を受賞して

NHO宇都宮病院
人　見　香　奈

令和元年９月７日国立国際医療研究センター病院にて、第47回国臨協関信支部学会が開催され、地区会コーナーにおいて特別賞を受賞することができました。年々、各地区会のポスターは個性豊かで素晴らしいものとなっており、その中で当地区会が特別賞に選ばれたことは大変光栄であり、地区会会員にとっても大変喜ばしいです。

今年の展示テーマは『検査科自慢』で、各施設のテーマに沿った文章、写真等で構成する事となっておりました。検査科自慢とは何か、とても難しいお題でしたが、少ない人数で多項目の検査を正確に迅速に報告しているスタッフの姿は、一番自慢出来る所であると感じ、ポスター内容としました。また栃木医療センターでは、力を入れているBLSや『仲の良さも自慢』というフレーズと素敵な写真の掲載が、今回の受賞に繋がったと思います。

残念ながら今回は優秀賞を逃しましたが来年こそは受賞出来るよう、会員一丸となってさらに頑張っていきたいと思います。

最後に、学会開催にご尽力いただいた国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

ベストロ演賞を受賞して

NHO横浜医療センター
呉　屋　　薫

この度、第47回国臨協関信支部学会におきまして、ベストロ演賞をいただき大変光栄に思っております。

演題は「超音波検査が有用であった中腸軸捻転を伴う腸回転異常症の一例」です。腸回転異常症は胎生期において中腸の回転および固定異常で発生します。このため中腸軸捻転が合併しやすく、合併した場合は腸管壊死が急速に進行し、早期の診断と緊急手術を要する最も重要な疾患です。嘔吐を繰り返す場合は、超音波検査で特徴的なWhirpool sign、トルネードサイン、SMV rotation signを指摘することで術前診断が可能であるという内容で発表させていただきました。

急遽発表者変更になり、時間的制約がある中での発表でしたが、今回受賞に至ったのは小関技師長、武山副技師長、遠藤副技師長をはじめ検査室の方々のご協力あってのことと感謝しております。

最後に、学会を開催するにあたりご尽力下さいました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

ベストロ演賞一覧

●第一会場	03	超音波検査が有用であった中腸軸捻転を伴う腸回転異常症の一例 NHO横浜医療センター　●共同演者　呉屋　薫
	05	上腸間膜動脈に限局した高安動脈炎の一例 NHO下志津病院　●舟木　恵
	10	当院における表面筋電図検査 NHO渋川医療センター　●湯浅日南子
	12	当院におけるホルマリン一元管理の取り組みについて 国立国際医療研究センター病院　●白井　恵美
	18	多項目自動血球分析装置XN-3100における測定法別IPメッセージ：PLT Clumps？検出能の特性と運用の検討 国立がん研究センター東病院　●井関　理紗
●第二会場	20	当院における緊急O型赤血球輸血の現状 NHO高崎総合医療センター　●飯田あいみ
	24	当院で過去５年間に検出されたBurkholderia pseudomalleiの２例 国立国際医療研究センター病院　●猪坂英里奈
	27	グラム染色検査の標準化を目的とした下気道感染診断の当院での取り組みについて～「菌を見る検査」から「鏡検から病態を見る検査」までの道のり～ NHO茨城東病院　●共同演者　小林　昌弘
	30	救命救急センターにおける臨床検査技師の役割 国立国際医療研究センター病院　●北浦　優紀
	35	医療法改正に伴う試薬管理の運用について NHOまつもと医療センター　●飯塚　裕大

支部表彰を受賞して

NHO沼田病院
赤　堀　良　道

この度、第47回国臨協関信支部学会におきまして支部表彰の栄誉を賜り誠にありがとうございました。受賞にあたりご推薦いただきました群馬地区会並びに関信支部の皆様に厚く御礼申し上げます。

私と関信支部との関わりは、昭和58年２月１日、旧国立水戸病院に本採用となった時に始まりました。静岡県出身の私にとって全く知らない水戸の地で新しい職務に就くことはとても不安でしたが、就任日が誕生日であったこともあり、同時に希望に満ちていた事が思い出されます。その後、茨城地区会のほか新潟地区会、群馬地区会で活動させていただき、36年間勤めてまいりました。長きにわたり勤めることができたことは、良き先輩方と優秀なスタッフに恵まれ、ご指導と助言をいただいたおかげと深く感謝しております。

入職から今日までの検査技術の進歩はめざましく、知識・技術の習得や、新しい情報の収集などに苦慮したこともありましたが、このような中、地区会においてたくさんの方と交流を持ち、情報交換出来たことは、大きな力となりました。また、レクリエーション等を通して親睦を図り、楽しかった思い出作りが出来たことも貴重な経験となっております。

最後に、国臨協関信支部の益々の発展を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

国立国際医療研究センター国府台病院
小　川　　勝

この度、第47回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただき、ありがとうございました。推薦していただいた千葉地区会と関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。

昭和56年12月に国立療養所中野病院に採用されてから37年間勤務させていただきました。その間９施設の異動があり、その都度業務内容も病理（細胞診）、細菌、血液、生化学、生理、一般検査と変わっていきました。気が付けばなんとなくですが、臨床検査全般が把握できる様になっていました。各施設で多くの先輩方や師匠に指導していただき感謝致します。また、地区会活動では、新潟、茨城、群馬、神奈川、千葉地区会に参加しました。各地区会ともそれぞれ個性的で、総会、レクリエーション等、楽しく参加させていただきました。特に千葉地区会では、みんなで作ったポスターが関信支部学会の地区会コーナーで、優秀賞を受賞した事や、レクリエーションで初となる野球観戦を成功させる事が出来ました。役員をはじめ各会員の皆様に感謝申し上げます。

最後に関信支部役員、ならびに会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

NHO小諸高原病院
齊　藤　美穂子

この度、国臨協関信支部長野地区会の推薦をいただき、支部表彰をいただくことができました。

推薦していただいた長野地区会並びに関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

私は昭和57年東京医療センターにて採用されて以来37年と長きにわたり勤務させていただきました。これも多くの先輩と良き同僚・後輩に恵まれ、皆様方にご指導ご助言をいただいたおかげと感謝しております。

臨床検査を取り巻く情勢は厳しさを増しておりますが、日々進歩している医療に対応するためには自己研鑽が求められます。私自身、関信支部学会や支部主催の多くの研修会に参加できたことで自身のスキルアップに大いに繋がったと感じております。今後、臨床検査技師がさらに活躍できる将来展望を関信支部一丸となって知恵を出し合い、検査技師のさらなる地位向上に繋がりますよう期待しています。

最後に国臨協関信支部、役員および会員の皆様の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

NHO西新潟中央病院
山　本　直　樹

この度、第47回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただきました。推薦していただいた新潟地区会ならびに関信支部役員の皆様に感謝申し上げます。昭和57年１月に国立療養所村松病院に採用され３施設37年間勤務させていただきました。こうして最後まで勤める事ができたのも多くの先輩と良き後輩に恵まれご指導をいただいたおかげだと感謝しております。

地区会の活動を通して思い出は多くありますが、中でも昭和61年７月から始まった新潟地区共同利用（大型機器有効利用）で免疫血清、生化学とシステム構築と運用に取り組んだこと、てんかん医療に関する臨床検査技師の育成で平成７年から始まった「てんかんに関する臨床検査技師研修会」に関われたことです。24年間にわたり全国から延べ323名の研修生を受け入れ、現在も支持継続されているところです。微力ではありましたが私にとって大きな財産となりました。最後に支部役員、会員の皆様のご健康とご発展を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

学術委員会による分科会に参加して（血清部門）

NHO信州上田医療センター
中　谷　道　昭

令和元年９月７日（土）、国立国際医療研究センター病院において第47回国臨協関信支部学会が開催され、学会企画である学術委員会による分科会に参加させていただきました。血清部門では「免疫検査の基礎とピットホール」というテーマで、学術委員の先生方からご講演いただきました。

免疫検査の分析装置は、短時間で高精度の測定結果を得られるようになり、誰でも簡単に精度の高い測定結果を出せるようになりました。しかし、測定結果をそのまま報告するのではなく、抗原抗体反応の原理や測定法が異なる免疫測定装置の特徴を理解する必要があります。今回の分科会では、相模原病院の田中暁人先生から、免疫測定装置メーカーごとの代表的な機器の測定原理や、特徴的な測定項目をアニメーションを交えながら解説をしていただきました。普段何気なく行っている測定ですが、誤った報告を防ぐ為にも測定原理を理解することが重要だと改めて認識しました。

同じく相模原病院の井田貴明先生からは、免疫検査のピットホールについて、異常データの原因やその対処法をご講演いただきました。特に微量フィブリンは日常業務でも検出する可能性が高く、検査データや検体状態の確認の大切さを再認識することができました。私自身、普段は生化学検査を担当していますが、今回行われた講演内容を活かし、今後その様な場面に遭遇した際には適切に対応していきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中ご講演を賜りました学術委員の先生方、並びに分科会を開催・運営していただいた国臨協関信支部役員の皆様に、深くお礼申し上げます。

学術委員会による分科会に参加して（一般部門）

NHO千葉東病院
河　合　真由子

令和元年９月７日（土）国立国際医療研究センター病院にて第47回国臨協関信支部学会が開催され、学会企画である学術委員会による分科会に参加させていただきました。

一般部門では「知っておきたい尿検査の進め方」をテーマに千葉東病院田原彩華先生と国立がん研究センター東病院秋江健太先生の両名から二部構成でご講演を賜り、大変勉強になりました。

一般部門の主である尿検査は、腎・尿路系の疾患を推測するための検査として広く利用されます。なかでも尿沈渣検査は細胞の形態学的知識と経験を要するため、分類に迷う細胞が出現した場合や尿定性検査または尿化学検査で異常値が出た場合の対応に不安を感じることがあります。

今回は、尿検査の基礎知識や尿沈渣検査において必ず押さえておくべき尿中成分の特徴と似た細胞との鑑別ポイントなど総論的に症例を踏まえながら解説していただきました。また、異型を疑うような細胞に関しては栗羊羹を例に挙げながらN/C比が増大しているのか裸核している、もしくは核が肥大しているなど核を栗に細胞質を羊羹に見立て、わかりやすく特徴の捉え方を教えていただきました。

今まで日常検査において曖昧に感じていた部分を今回の講演を聴講したことにより基礎的な部分から各論的な部分まで再認識できました。今後は、さらなる技術向上に努めていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙のなか分科会を企画してくださいました学術委員会の皆様ならびに関信支部役員の皆様に深く御礼申し上げます。

国臨協関信支部主催ビアパーティーに参加して

NHO相模原病院
吉　田　陽　子

令和元年７月27日（土）に旬菜酒場 天狗 新宿西口パレットビル店にて開催された、関信支部学会主催のビアパーティーに参加させていただきました。当日は台風の上陸が予想されていたので開催されるのかどうか心配していましたが風は強いもののじっとしているだけでも汗が滲んでくるような天気で、絶好のビアパーティー日和となりました。

私は住まいが神奈川県の横浜市なので、開催場所の新宿はそこまで遠い距離でもないのですが、なかなか訪れる機会がありません。そのため、ビアパーティーに参加するたび迷子にならないよう、きょろきょろと見知った顔を探しながら会場に向かいました。今回は他施設の方と一緒にお話ししながら無事に会場に着くことができたので、方向音痴な自分はほっと胸を撫で下ろしつつビールを待ちわびてそわそわしていました。いざビアパーティーが始まると、自施設の同僚はもちろん、以前の施設でお世話になった先輩方や同期と久々に話がはずみ、次々に出てくる美味しい料理や冷たいビールに舌鼓を打ちました。気が付けばあっという間の２時間を楽しく笑顔で過ごすことができました。

真面目に仕事の話をしたり、新しく赴任された方のご紹介をいただいたり、久しぶりに会った同期が結婚していたという素敵なニュースも聞くことができ、このような交流のできる機会の大切さをしみじみと感じました。このような機会にどんどん参加しようと思いますが土地勘のない場所だとすぐ迷子になってしまうので、いつか住まいの近くで開催されないかなと淡い期待をしています。

最後になりますが、今回のビアパーティー開催に際しまして、ご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様方に心より感謝申し上げます。

第２回国臨協関信支部主催研修会に参加して

NHO村山医療センター
土　井　淳　志

令和元年７月27日、全国障害者福祉センター戸山サンライズ２階大研修室において第２回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。講師に国立国際医療研究センター病院　国際感染症対策室医長 忽那賢志先生をお迎えし、「東京2020に向けたグローバル時代の感染症対策」と題してご講演いただきました。研修会では、近年国内で旅行者・外国人居住者の増加による感染症の持ち込みが増加傾向にあること、また2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて競技会場に多数の人が集まることによる感染症アウトブレイクの懸念が示されました。実際の症例では患者を診断する場合、主訴だけでなく海外渡航歴を確認することの重要性を学ばせていただきました。加えて温暖化に伴い、2014年に代々木公園を感染推定地とするデング熱の発生事例があったように、感染症を媒介する蚊の分布域が日本国内で拡大していることも示していただき、私自身も夏場蚊に刺されることが多いため大変参考になりました。また麻疹、風疹についてはワクチン接種の重要性を改めて認識させていただき、私達一人ひとりがワクチン接種率を高めることにより集団免疫を高められことを学ばせていただきました。グローバル化が進む現在、いかに感染症のリスクを防ぐか、これは来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックの重要な課題だと思いました。

最後になりますが、ご多忙の中ご講演いただきました忽那賢志先生をはじめ、今回の研修会を企画・運営していただいた関信支部役員の皆様に心より御礼申し上げます。

医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修に参加して

国立がん研究センター中央病院
高　橋　典　子

令和元年６月10日（月）国立病院機構関東信越グループ研修センターにて「医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修」が開催されました。

午前中は医療職と福祉職の参加者合同で講義を受け、主任・係長に期待される役割や実際の労務管理に必要な知識と国立病院機構の運営状況について学びました。

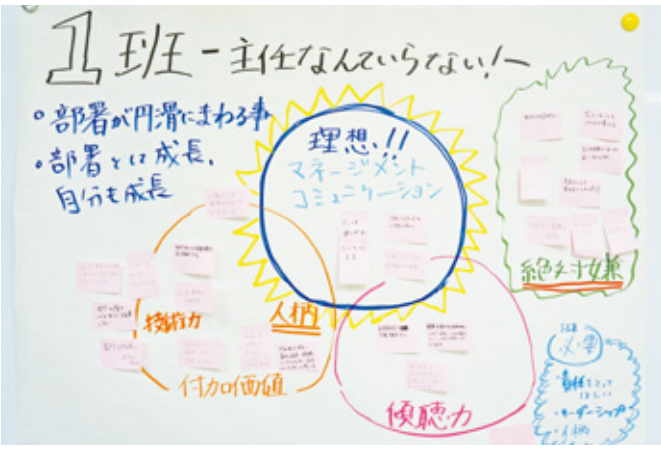
午後は各職種に分かれ、上司の立場となった皆さまの経験談を拝聴した後、４グループに分かれグループワークを行いました。

講義では、キャリアアップして経験されたご苦労や家族と仕事の関係、それぞれのステージで立てられた目標など身近なテーマを取り上げていただいたことで「キャリアアップ」について具体的にイメージすることができました。

グループワークでは「主任なんていらない？」というテーマで参加者同士意見を出し合い一つの答えを導き出す経験ができました。参加者全員が主任に期待する理想の働き方とそうでない働き方の両方について思いつくまま全てメモにおこしていきました。各グループ数十枚にも及ぶメモが重なり合い活発な意見交換の場となっていました。どのグループも主任の教育能力や知識力、リーダーシップ性やコミュニケーション能力、部下の働き方を管理する能力に期待し、「主任は必要である」という答えにたどり着いていました。

主任としてのリーダーシップやコミュニケーション、マネージメントは、時に行き過ぎてしまったり足りなすぎてしまったりして、期待に応える難しさに気付くと共に、午前の講義で学んだ「価値観の違いに気づくことが大事」という言葉を思い出した１日となりました。

最後になりますが、今回の研修会を企画・開催してくださいました関東信越グループの皆さまとご多忙の中ご指導いただきました講師の先生方に深く感謝申し上げます。



地区会だより

千葉地区会交流会に参加して

NHO下志津病院
舟　木　　恵

令和元年５月25日（土）千葉地区会交流会として、「巨人vs広島戦観戦ツアー」が開催されました。長野選手と丸選手の移籍もあり古巣同士の戦いとなったため、会員56名と多くの参加がありました。当日は汗ばむほどの陽気でしたが、乾杯ドリンクと記念のタオルがセットのプランで、涼しいドーム内での観戦となりました。

座席は、１塁側内野席でグラウンドを見下ろす格好となり、試合を存分に楽しむことが出来ました。

試合は３回表、菊池涼介選手がソロホームランを放ち、参加者の多くは巨人を応援していましたが、ホームランということもあり歓声もひと際大きくなりました。試合中は、皆さんが夢中になってそれぞれの球団を応援したり、お酒とおつまみを片手に観戦したりと、とても和やかな雰囲気で試合を観戦することができました。巨人初の１点目はゲレーロ選手がライトスタンドへホームランを放ち、ようやく参加者から安堵の声が聞こえてきました。試合も終盤に差し掛かり、追加点を取れぬまま８回裏。試合途中のイベントで「坂本選手にホームランを打ってほしい」と小学生の言葉に感化されたのか、坂本選手がバッターボックスに立つと、スタンド上段に飛び込むホームランを放ち、皆さん大興奮でした。最後に、待ちに待った阿部選手がバッターボックスに立つと、ドーム内が割れんばかりの大歓声に包まれました。

予定していた試合終了時刻が少し延び、懇親会の予約時間に間に合わないのではないかとひやひやしながら、駅近くの居酒屋に移動し懇親会が行われました。他施設の皆さんと野球や仕事の事など、いろいろなお話をすることができ、とても有意義な交流の場となりました。

最後になりましたが、業務ご多忙の中、今回の企画・開催してくださいました千葉地区会役員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

栃木地区会交流会に参加して

NHO栃木医療センター
遠　藤　　光

令和元年７月20日（土）、栃木県宇都宮市大谷町の大谷資料館にて栃木地区会交流会が開催されました。今年は梅雨明けが遅れていたこともあり、悪天候が懸念されていましたが当日は天候に恵まれ、栃木医療センターと宇都宮病院の２施設からの19名の参加により行われました。

まず、高さ27メートルの迫力ある平和観音像の前に集合し、写真撮影をしてからスタートしました。そこから少し歩き、日本最古の石仏がある大谷寺へ行きました。岩の下にお寺があり、今まで見たことのないその独特な立地に圧倒されました。また、大きな岩に繊細に彫られた観音様は神秘的で感動しました。その後更に少し歩き、近くにあるレストランでランチをしました。私は今年の４月から初めてのひとり暮らしだったので、久しぶりに美味しい料理をお腹いっぱい食べられて幸せでした。そして最後にメインの大谷資料館へ行きました。館内は10度前後で、この日は気温が30度を超え蒸し暑かったため、私もそうですが、皆様の第一声は「あ～、涼しい」でした。その後に大空間の地下に広がる絶景と幻想的な雰囲気に感銘を受けました。館内にはアート作品やオブジェ、古びた機械などが展示されており、１つ１つに趣が感じられました。

普段お世話になっている先輩方や宇都宮病院の方とも楽しくお話ができ、充実した時間を過ごすことができました。仕事上での付き合いも大切ですが、今回の交流会のような行事にも参加し、多くの方々との関係を深めていきたいと思いました。

最後になりますが、お忙しい中、今回の交流会を企画、開催していただきました栃木地区会の役員の皆様に心より御礼申し上げます。

会員のひろば

国立国際医療研究センター
国府台病院
長　井　俊　道

昨年、我が家に一匹の仔犬がやってきました。その仔犬は、アイメイト協会より１年間お預かりすることになったアイメイトの候補犬です。アイメイト協会出身の犬は「盲導犬」ではなく「アイメイト」と呼びます。アイメイトと呼ぶ理由は、「盲導犬」という言葉からは「賢い犬が盲人を連れて歩いている」と受け取りがちです。しかし、実際は視覚障害者が犬に指示を出し、犬がその指示に従いながら共に歩んでいます。よって「私の愛する目の仲間」という意味を込めて「アイメイト」と呼んでいるそうです。

我が家に来たアイメイトの候補犬は、生後２ヶ月、体重４Kgの雄のラブラドールレトリーバーでした。ラブラドールレトリーバーは、賢くて落ち着いている犬とお思いでしょうが、仔犬時代のラブラドールレトリーバーは通称「悪（ワル）ラドールレトリーバー」と言われるぐらいヤンチャです。家の中の家具、ソファー、壁、床をことごとく破壊し、仔犬とは思えぬほどの破壊力でした。（笑）また、つぶらな瞳で真剣にイタズラしている姿が可愛くて怒りたくても怒れません。（家はボロボロ・・・）海、山、川、何処へ行くにも一緒に連れて行き、寝る時も一緒に寝て、楽しい日々を過ごしました。我が家に来て半年になる頃には、だいぶ落ち着きがでてきて「悪（ワル）ラドールレトリーバー」から「愛（ラブ）ラドールレトリーバー」と変わって来ました。（笑）散歩をしていると周りの人からは、きちんと躾された賢い犬だねーと言われることが多くなりました。実際は、躾はほとんどしておらず、この犬の血統で持って生まれた特性だと思いました。１歳になる頃には、体重約20Kgと来た時の５倍になり、９歳の末娘と体格が同じぐらいになり心身ともに成長しました。高校受験を控えた長男は、ストレスが溜まるところですが、塾から夜遅く帰ってくると、眠っていても必ず尻尾を振って出迎え、癒されイライラすることが少なかったと思います。

アイメイト協会への引き渡し日が近づくにつれ、「返したくない」とネガティブな気持ちになり、このままずっと一緒に楽しく過ごせたらなーと思ったのが「本音」です。しかし、犬は自分達のペットではなく大切な使命を持った預かり物で、寂しいお別れじゃないからと自分達に言い聞かせ引き渡しの日を迎えました。（涙・涙）その後、家族がペットロスになったのは言うまでもありません。初めは、ボランティアの一環で始めたアイメイト候補犬との生活。しかし、犬と生活することで今まで気付かなかったことを沢山気付かされ、教えて貰ったように思います。また、犬を通しての沢山の友人も出来、３人の子供達にとっても良い経験になったと思います。最後になりますが、今回の仔犬飼育ボランティアは終わってしまいましたが、今後もなんらかの形でアイメイトのボランティア活動に関わっていきたいと思っています。今回のアイメイト候補犬にも試験に合格し、全盲の方に貢献できる立派なアイメイトになってほしいと家族で日々願っています。

監査報告書

NHO下志津病院　益田泰蔵

国臨協関信支部では平成31年４月20日に開催された第47回定期総会において、本年度より会計のみならず会務においても監査を行うこととなりました。

先日、９月７日に第47回国臨協関信支部学会が無事に閉会し、同月28日に国立国際医療研究センター病院において前期会務・会計監査を実施しましたので、その内容について報告します。

監査方法として、関信支部より前期分の活動報告、会計決算報告および第47回国臨協関信支部学会報告を受け監査を行いました。

また、総会で承認された事業方針に従って会務活動が行われているか、会計処理が適正に行われているかについても確認しました。

関信支部学会については、学会参加者は364名と多くの参加があり、今年度から演題発表にかかるシステム部分を専門業者からのレンタルにより運営がされました。以前はシステムトラブルもあり発表が滞る事態もありましたが、今回はトラブルなく運営されていました。

費用については、学会運営費の事務費予算額はシステムレンタル料を踏まえて130万円としていましたが、決算額では114万円となり、その内システムレンタル料は64万円でした。

学会運営費全体として昨年と比較し28万円増となりましたが、学会参加費を500円値上げすることにより一部対応し、経費削減にも取り組み当初予算内に収めていました。

会務活動の中では、日臨技の生涯教育研修登録の遅延や理事会議事録の度重なる修正等がありましたので手順やチェック体制の確認について申入れをしました。

上記のように会務活動状況、会計報告等および第47回国臨協関信支部学会の運営状況について監査を行いましたが、すべて適正に行われていました。

岩﨑支部長はじめ理事の皆さまにおかれましては、適正な会務執行に感謝すると共に、業務多忙の中会務活動大変だと思いますが、会員のために引き続き適正な会務活動をお願いいたします。

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	学術	地区会	その他
11月	8日	金			第73回国立病院総合医学会（名古屋）
	9日	土			第73回国立病院総合医学会（名古屋）
	16日	土		栃木地区会定期総会	
	23日	土		群馬地区会定期総会	
12月	7日	土	第３回関信支部研修会		
2020年1月	18日	土			地区代表者会議

＊写真募集＊

関信支部ニュース220号（新年号）の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。

採用された方には粗品を差し上げますので、奮ってご応募ください。（募集期限は11月29日（金）まで）

宛　先：NHO甲府病院
研究検査科　木津谷　亮
ＴＥＬ：055-253-6169
Email：kitsuya.akira.pm@mail.hosp.go.jp

速報！ 開催日が決定しました！ 東京パラリンピック同時開催！

第48回国臨協関信支部学会

開　催　日：令和２年９月５日（土）

学会テーマ：「実践　～新時代に臨む～」

人事異動

【令和元年７月31日付　退職者】

氏名	施設名	職名
山下知子	ＮＨＯ西埼玉中央病院	技師

【令和元年８月１日付　採用者】

氏名	新施設名	新職名
関口和也	国立成育医療研究センター	技師

【令和元年８月16日付　採用者】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
福島成美	国立国際医療研究センター国府台病院	期間職員	国立国際医療研究センター国府台病院	非常勤

【令和元年９月１日付　採用者】

氏名	新施設名	新職名
大越卓	国立成育医療研究センター	技師

【令和元年９月30日付　退職者】

氏名	施設名	職名
相吉実千代	ＮＨＯ甲府病院	技師
黒沢結理	国立がん研究センター中央病院	非常勤

【令和元年10月１日付　昇任】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
福富健司	ＮＨＯ甲府病院	主任技師	ＮＨＯ相模原病院	技師

【令和元年10月１日付　採用者】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
村上夏美	ＮＨＯ相模原病院	技師	国立精神・神経医療研究センター病院	非常勤

編集後記

第47回国臨協関信支部学会は多くの会員の皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。学会が盛会のうちに終了し、ほっとしております。秋は紅葉や食欲など色々と満喫できますね。皆様はどのような秋を満喫されますか？私はお気に入りの音楽を聴きながら、秋を満喫したいと思っています。　広報部　小池　勝人

学会企画　学術委員会による分科会　解説

血清部門

NHO相模原病院　井田貴明

この度、血清部門は「免疫検査の基礎とピットホール」と題しまして分科会を開催致しました。

免疫血清検査は、各メーカー様々な測定装置を開発しています。免疫検査の現状として、一部の項目においてはWHOの標準物質が存在していますが、多くの項目は基準分析法が存在していません。

今回１つ目のセッションは、免疫検査の基礎として各メーカーの測定装置における「測定原理」、「測定法の種類」についてアニメーションなどを用いて概説致しました。測定原理はピットホールを解析するうえでも、測定者は頭に入れておかなければならない大変重要な基礎となります。

また、各メーカー別「測定値データの違い」、「測定項目の違い」では、同じ項目でも測定値に大きなばらつきがあることや、各メーカーの装置でしか測れない項目などの特色を解説致しました。自施設の装置に関する復習や免疫測定装置更新時の一助となりましたでしょうか。

２つ目のセッションでは、ピットホール編と題して異常反応における因子について、測定物質の性状や検体側の要因と分析装置の要因をコンパクトにまとめました。

ピットホールと聞くと、測定項目に対しての解説となりがちですが、今回は視点を変えて測定前のピットホールより「血清分離不十分の検体が測定値に与える影響」や「CYFRAにおけるVortex Mixerによる攪拌の影響」を解説致しました。免疫血清検査のピットホールにつきましては時間の都合で血中HBVマーカーとCA19-9について解説致しましたが、やはりピットホールとなる原因は様々であり、複合していることもあるため、各検査項目における特有なピットホール事例を把握し共有しておくことが重要だと思います。最後となりましたが、今回の血清部門の分科会を問題解決の糸口として活用していただければ幸いです。

一般部門

NHO千葉東病院　田原彩華

今回の一般部門の分科会では「知っておきたい尿検査の進め方」と題し、尿検査の基礎についての発表と異型細胞についての発表を２部構成にて発表いたしました。

尿検査は簡便におこなえる検査で、時間外に提出されることも少なくない検査です。緊急度も高くなく、それほど重要視されていない項目ではありますが、不慣れなために検査に長時間がかかったり、誤った結果を報告してしまっては更に検査の重要度が下がってしまいます。

今回の発表では、尿検査を実施するにあたって普段私たちがどのようなところに着目して検査を進めているかに焦点をあてた発表をさせていただきました。

前半では、最低限知っていなければならない尿定性検査について、腎機能検査の補助診断としての尿化学検査の基礎について、尿沈渣成分についてを駆け足ではありましたが解説させていただきました。その後、症例を６題提示し、尿定性検査と尿沈渣成分から、生化学項目や血液検査項目、尿化学項目より病態を推察していきました。

後半では異型細胞について検査の進め方、各組織型の形態的特徴、着目すべき特徴について解説させていただきました。異型細胞の出現形態は、症例ごとに異なることもあり、普段尿沈渣検査にあたられていない場合、日当直時の不安は大きなものと思います。遭遇率の高い尿路上皮癌を見逃さないために特に時間をかけて解説いたしました。

尿検査のなかでも尿沈渣検査は技師間差が大きく、普段からみていないと日当直時に苦慮することもしばしばあり、不安要素のひとつであると思いますが、今回の発表を契機に今後、皆様に有用な情報を提供できるよう努めさせていただきます。